

## 5 大学等環境安全協議会報告

排水処理センター 藤原 勇

### 第21回大学等環境安全協議会総会・研修会

開催日:平成15年11月6日、11月7日

場 所:東北大学 大学院工学研究科大会議室

総会 11月6日

挨拶 大学等環境安全協議会 会長 玉浦 裕

平成14年度事業報告、決算報告、監査報告、規約改正、技術賞・功労賞授賞式

平成15年度事業計画、予算案審議、技術賞、功労賞、協議会賞受賞式

技術賞受賞講演

「実験環境管理室における環境保全業務」筑波大学実験環境管理室 技術専門職員 岩原 正一

「金沢大学における実験系廃液の管理と処理」金沢大学環境保全センター技能補佐員 吉崎佐知子

「東京大学環境安全研究センターにおける分析管理業務」

NECアメニプランテクス(株)社員(京大学環境安全研究センター派遣) 山田 剛志

研修会

挨拶 東北大学 副総長 中塚 勝人

パネルディスカッション 「各大学における独立法人化に向けた環境安全対応」

パネリスト

金沢大学 施設部FM推進室 室長 浅藤 進

京都大学 施設部企画課 課長 山下 隆幸

東京大学 施設部企画課 課長 加納 博義

東京工業大学 総合安全管理センター付 施設部企画課 課長 小松 幸雄

東北大学 副総長 北村 幸久

名古屋大学 工学部・工学研究科 環境安全管理室 技術専門職員 松浪 有高

早稲田大学 環境保全センター 事務長 新井 智

特別講演 「健康・寿命・がん予防」 東北大学 名誉教授・宮城県病院事業管理者 久道 茂

事務連絡

懇親会

11月7日

特別講演 「青森・岩手県境産業廃棄物投棄現場の今後」

東北大学環境保全研究施設 施設長 三浦 隆利

特別講演 「環境とリサイクル」 小坂製錬株式会社 代表取締役社長 前田 吉彦

懇談会 「独立法人化に向けた大学等の環境安全対策について」

文部科学省:文教施設部技術課 課長 岡 誠一

大環協:会長・副会長・常任理事・理事・外部理事

挨拶 大学等環境安全協議会 副会長 伊永 隆史

見学会

仙台清掃公社仙北事業所RDF工場および仙台市石積埋立管理事務所堆肥化センター

今回の総会・研修会は独立法人化前の最後の機会とあって、特別プログラムとして①パネルディスカッション「各大学における独立法人化に向けた環境安全対応」が企画され国立大学の施設部の方が金沢大学、京都大学、東京大学、東京工業大学、東北大学および名古屋大学では工学部からそれぞれ準備の状況について

ての説明があった。国立大学の法人化の準備について、各大学とも担当の労働基準局との協議をふまえて学内整備中の話題であった。私立大学の代表として早稲田大学から環境安全対応についての現状が報告された。私立大学では労安法が適用されているのでどの程度の対応がなされているかは興味ある話であった。逆に私立大学の方は、国立大学が労安対応に対してどの程度厳密に(たとえば作業環境測定はどのような場所を行う)することについて、気にされていた。また ② 「独立法人化に向けた大学等の環境安全対策について」文部科学省の文教施設部技術課岡課長と大環協の会長以下理事との懇談会が企画され、文部科学省の考えの一部も聞くことができた。文部科学省においては、大学が半年後の法人化に移行するにあたり準備が必ずしも十分でないことはご存じの様子であり、できるだけ施設および制度を整備してほしいとの要望であった。今回の研修会では、初めての法人化であることからこの大学も他大学との意見交換の貴重な機会であり、各大学ごとに手探りで対応していることがよくわかった。

## 第20回大学等環境安全協議会技術分科会

開催日:平成16年 7月22日、23日

場 所:金沢エクセルホテル東急

7月22日

挨拶

大学等環境安全協議会会長 玉浦 裕

文部科学省大臣官房文教施設企画部 参事官付企画官 加太 孝司

特別講演

「BSE(狂牛病)対策のその後」 金沢大学名誉教授・金沢市都市政策部 環境技術顧問 小森 友明  
報告

「法人化後の実際 ―監理・教育がどう進んでいるか―

東京大学 施設部環境課 課長 西川 和慶

東京工業大学 施設運営部施設企画・安全管理課 課長輔佐 寺田 博

京都大学 施設・環境部 部長 金谷 史明

「廃棄物処理外部委託のための技術ガイドライン」の活用方法について

吉備国際大学政策マネジメント学部 教授 井勝 久喜

プロジェクト報告

「大学等のPRTR法への対応ならびに労安法への対応」 ○玉浦 裕・金子 宏・長谷川紀子

「公立大学等の廃棄物処理実態調査と環境安全推進」

○伊永隆史・上方宣政・白川久栄・後藤正志・来田村実信・大内幹雄・有菌幸司

実務者連絡会からの報告

「富山大学薬品管理支援システム“TULIP”」 富山大学水質保全センター 助手 川上 貴教

事務連絡

懇親会

7月23日

特別講演 「キャンパス内の里山の保全と活用 ―金沢大学「角間の里山自然学校」の試み―

金沢大学 自然計測応用研究センター 理学部生態学研究室(兼務) 教授 中村 浩二

実務者連絡会企画プログラム

全体ディスカッション 「国立大学法人化後の諸問題についての情報交換」

挨拶

大学等環境安全協議会副会長

山本 和夫

見学会 金沢大学環境保全センター及び角間の里山散策

国立大学が法人化されての初めての研修会が金沢で開催された。それぞれの大学が法人化に伴いどのような準備をしたか、これから取り組んでいるもの及び計画中であるものに対して意見交換のためのプログラムが組まれていた。「法人化後の実際－監理・教育がどう進んでいるか－」について、東京大学施設部環境課、東京工業大学施設運営部施設企画・安全管理課、京都大学施設・環境部の方が、それぞれの取り組み具合について、資料を用いて説明された。これらの大学では法人化に伴う労安法の適応に伴う安全管理体制および学内の労働安全対策(産業医、安全管理者等々)について報告された。また、全体ディスカッションが行われ「国立大学法人化後の諸問題についての情報交換」として、予め決められた質問に対して各大学はどうか対応をしているか質問に対して挙手形式で行われた。これについては、秋の総会にもう一度その後の対応についても行われる予定である。この中でほとんど大学がまだ7月の時点で作業環境測定をしていないことがわかった。いくつかの大学は作業環境測定を外注で行うこととし見積もりを取っている途中でであり山口大学と同じ状況であることがわかった。

今回の分科会は金沢大学で開催された。移転中である新しい金沢大学(角間キャンパス)の一部を見学させて頂いた。角間キャンパスは環境との共生に取り組んでいてキャンパス内に里山を保有し、里山の保全と活用を地域の人と一体になって(協力して)の「角間の里山自然学校」を開いている。郊外に移転する大学は開発に伴って自然を破壊するのではなく自然と共存することが求められており、逆に共存しないと地域に受け入れられないのがこれからの大学の指命であることを感じた。

## 「環境安全学の創成と教育プログラムの開発」領域研究シンポジウム

### 第1回シンポジウム

開催日:平成15年11月7日

場 所:東北大学 工学部青葉記念会館401大研修室

開会挨拶	特定領域研究領域代表	京都大学 環境保全センター 教授	高月 紘
「本特定領域研究のめざす環境安全教育に関連する実施例」			
		東京工業大学 炭素循環エネルギー研究センター 教授	玉浦 裕
		京都工芸繊維大学 工芸学部 助教授	山田 悦
「実験廃棄物の無害化処理システムと実践的環境安全教育」			
		東京大学 環境安全研究センター 教授	大島 義人
総合討論会	司会:	東京都立大学 大学院理学研究科 教授	伊永 隆史
閉会の挨拶	特定領域研究評価者	工学院大学 工学部 教授	御園生 誠

### 第2回シンポジウム

開催日:平成16年7月23日

場 所:金沢エクセルホテル東急

開会挨拶	特定領域研究領域代表	京都大学 環境保全センター	教授 高月 紘
特別講演 「労働衛生と研究教育－院内感染等に学ぶ－」			
		中央労働災害防止協会 大阪労働衛生総合センター	所長 杉田隆博
「大学における労働安全衛生の対応について」			
		島根大学 医学部公衆衛生学教室	教授 藤田委由
「大学における化学実験のダウンサイジング化に対応したマイクロガラス器具の開発」			
		東京大学 環境安全研究センター	教授 尾張真則
「化学実験時の作業者の健康リスクと安全対策にかかわる教育基盤について」			
		京都大学 環境保全センター	助手 水谷 聡

統合討論

閉会の挨拶 特定領域研究評価者

名古屋大学 大学院工学研究科応用化学専攻 教授 原口紘丞

「環境安全学の創成と教育プログラムの開発」領域研究シンポジウムが大環協の先生方が中心となり文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究」に応募、採択されたことから、研修会に日程にあわせてシンポジウムが開催された。「環境安全学の創成と教育プログラムの開発」のテーマについて大環協の先生が取り組んでおられる「大学における労働安全衛生の対応について」「化学実験時の作業者の健康リスクと安全対策にかかわる教育基盤について」「環境安全教育に関連する実施例」「大学でのISO14001取得と化学物質管理」、「労働衛生と研究教育」である。これからの大学に求められる労働安全衛生の対応および環境安全教育大環協の化学物質管理等についてであり大変参考になるシンポジウムとなった。あいにくシンポジウムには参加できなかったが、資料を読んで大学の環境安全学・環境安全学については山口大学においても活用させていただく内容が多いことに気がついた。このシンポジウムは今後もあと数回開かれる計画と聞いた。

### 第5回大学等環境安全協議会技術者連絡会

開催日：平成15年11月5日

場 所：東北大学工学部青葉記念会館大研修室

世話人挨拶

浜松医科大学 鈴木一成

技術者連絡会 総会

研修会

講演 「労働安全衛生法に適用した実験室のあり方」 ヤマト科学(株) 研究設備本部 松居靖雄

「作業環境測定の実施方法について」 (株)日吉 岸本康幸、北中光晴

技術報告 「洗煙水中のふっ素とほう素の同時処理」 京都大学環境保全センター 真島敏行

「液中燃焼法による廃液処理－フェライト反応とふっ素の同時除去－」

不二倉業(株) 富樫 晋、菊池都土、岡沼賢治、進藤 拓

グループディスカッション 「労働安全衛生法への適用状況について」

「処理困難な廃棄物への対応について」

「適正な廃棄物委託処理について」

報告

(1) 技術者連絡会ホームページについて

(2) その他

挨拶

大学等環境安全協議会会長

東京工業大学教授 玉浦裕

技術者連絡会も今回で5回目である。名前も次回からは「実務者連絡会」となることが決まった。必ずしも、技術者でなく廃液回収・処理等に関わる実務者が情報交換を行う場にしようということであり、大学によって廃液処理、労働安全に関する業務が同じではないことから単なる技術者でないということである。この会には山口大学からは梅本施設部企画課係長と医学部から2名参加された。梅本係長から今回の話題を聞いたところ、「労働安全衛生法に適用した実験室のあり方」、「作業環境測定の実施方法について」についての資料およびグループディスカッションでは「労働安全衛生法への適用状況について」における意見交換が大変役に立った。またこの連絡会の資料は参考資料として当大学内においても大いに活用された報告を受けた。後5ヶ月後に迫った法人化前の意見交換として有意義だったと聞いている。

(文責：排水処理センター 藤原)